

# 博物館だより

No.45

平成22年1月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行  
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13  
TEL 0930-33-4666  
FAX 0930-33-4667

## 国分寺三重塔すす払い 無事終了しました！

12月5日(土) 博物館友の会恒例の三重塔すす払い(清掃)が行われました。ボランティア参加の呼びかけに25名の方が応じて下さり、寒天の中みやこ町のシンボルの清掃に汗を流していただきました。参加・ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました！

## 友の会主催 文化講演会のお知らせ

友の会が主催する文化講演会が以下の日程で行われます。会員外の方も聴講いただけますのでふるってご参加ください。

- 日時 平成22年1月31日(日) 10時00分～
- 場所 博物館 研修室
- 講師 当館学芸員 川本英紀
- 演題 「育徳館の二五〇年」
- 備考 会員外の方の聴講は、資料代として実費三〇〇円をいただきます。

## 1月期歴史講座のご案内

- 【漢詩文講座】 1月16日(土) 9時30分～
- 【金曜古文書講座】 1月22日(金) 10時00分～
- 【古典かな講座】 1月23日(土) 9時30分～
- 【みやこ学講座】 1月23日(土) 13時30分～
- 【古文書講座】 1月30日(土) 10時00分～



12月 三重塔すすはらい  
一年分のすすをはらいました



5月 企画展「吉田健作と吉田増蔵 (学軒) 展」  
近現代史に足跡を残した吉田兄弟を紹介



6月 みやこ学講座 (現地学習会)  
今年はみやこの魅力を古代から再発見する企画です



11月 特別展「岩垂邦彦」展  
エジソンに師事しNECを創業した岩垂邦彦を紹介

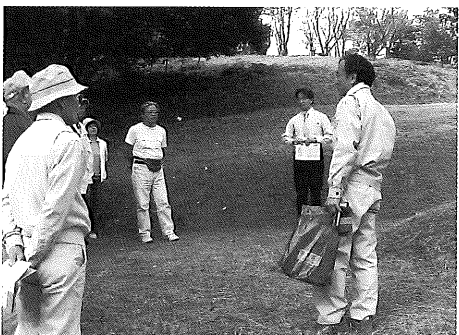
## 平成21(2009)年の博物館 のチャレンジを総まとめ!!

思いおこせはあんなこと、こんなこと…平成21年の博物館も友の会をはじめ学校や地域の皆さんなど多くの方々の参加と協力をいただきながら、館の内外でさまざまな学習・交流活動を展開してきました。

平成22年も博物館はふるさとを楽しく学び・発見し、守り、伝えてゆくため頑張ります！どうぞよろしくお願いたします！



7月 出前授業 (土器づくり体験教室)  
子供たちに土器づくりにチャレンジしてもらいました



10月 歴史たんけんウォーク (古墳めぐり)  
古代豊国の王たちが眠る古墳を見学しました



9月 文化財(遺跡)発掘調査(国作八反田遺跡)  
博物館は文化財の調査記録活動も行っています



8月 史跡散策バスハイク  
話題の阿修羅を見学。迫力と人ごみが圧巻でした！

# みやこの歴史発見伝 34

ドイツ文学者・漱石門下

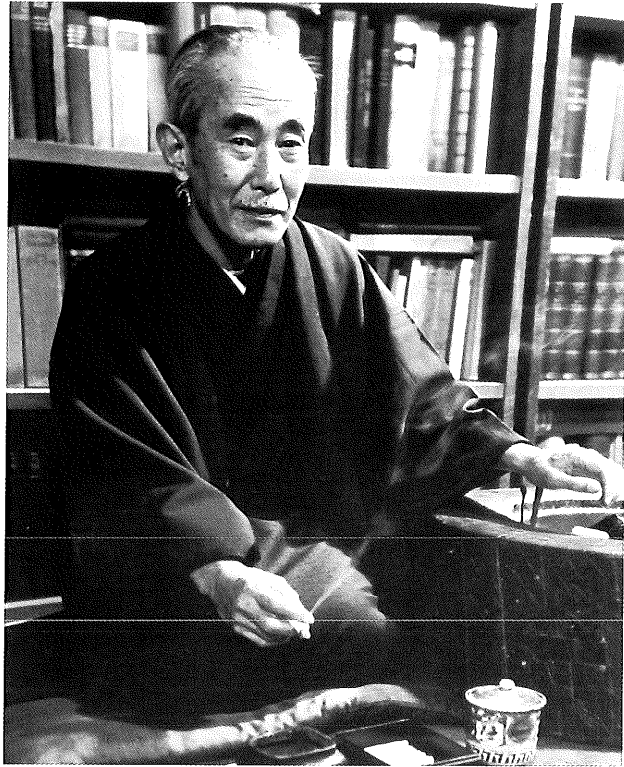
## 小宮豊隆

女手に育ちて

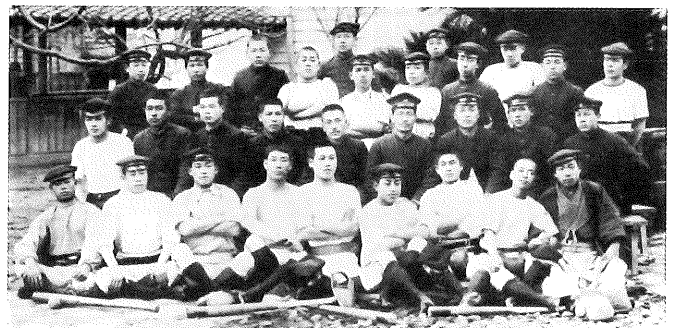
小宮豊隆は、明治一七年（一八八四）、仲津郡久富村（現みやこ町犀川久富）で生まれました。旧制中学校の教員であった父弥三郎の転勤により、幼年の頃は大和郡山（奈良県）で過ごし、豊津尋常小学校（現豊津小学校）に通いました。それから間もない明治二七年に父が亡くなり、豊隆は祖母と母とに育てられました。後年、

師である夏目漱石に激賞されたという彼の俳句「女手に育ちて星を祭りけり」は、そんな生い立ちにちなんで詠んだものです。漱石との出会い

明治三五年（一九〇二）、福岡県立豊津中学校（現育徳館高校）を卒業した豊隆は、第一高等学校（現東京大学教養学部）へ進み、同三八年には東京帝国大学独文科に入學しました。その際、従兄弟の犬塚武夫（ロンドンで漱石と同じ下宿



▲小宮豊隆



▲旧制豊津中学校 野外運動部卒業記念写真（明治35年）  
3列目向って右から2人目が小宮豊隆

住んだ人物の紹介で、当時東京帝国大学の英語講師であった夏目漱石と出会い、大学在学中の保証人となってもらいました。豊隆は、既に豊津中学校時代から漱石の名を知っていましたが、これを機に、漱石と生涯にわたる師弟の関係を結ぶことになったのです。

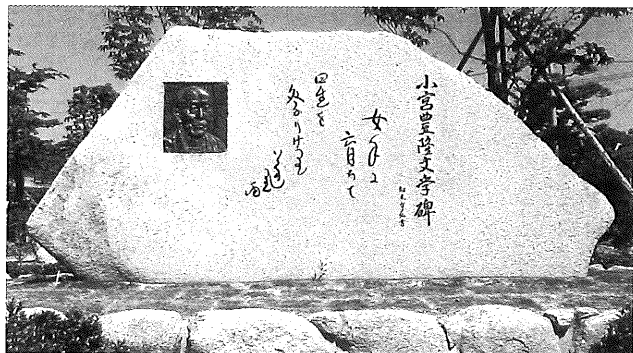
豊隆の、漱石に対する敬愛の念は漱石自身にもたしなめられるくらい強く、周囲が彼を「漱石神社の神主」と呼ぶほどのものでした。漱石の没後（大正五年没）、豊隆の手による『漱石全集』の編集や、漱石文学の研究は、まさにその強い思いによるものでした。生前の漱石もまた、門

中で特に豊隆を可愛がったといえます（ちなみに、小説『三四郎』の主人公小川三四郎は、その住所が「福岡県京都郡」であることから、小宮豊隆がモデルと言われる）。

### 多才な文筆活動

漱石門下としての一方で、大学を卒業した豊隆は、専門であるドイツ文学の研究者としての道を歩み、慶応大学、海軍大学、法政大学などで教鞭をとりました。また、大正一三年（一九二四）には、東北帝国大学（現東北大学）ドイツ文学講座の初代教授に就任。第二次大戦後は、東京音楽学校（現東京藝術大学）校長、学習院女子短期大学学長などを歴任しています。

他方で、豊隆の研究活動は専



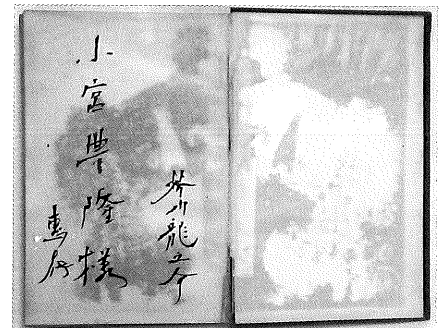
▲小宮豊隆文学碑（福岡県立育徳館高等学校）

門の枠を越え、俳句や歌舞伎などにまで及びました。その多彩な研究活動と博識さを評し、周囲は「小宮先生は専門のドイツ文学以外は何でも知っている」と揶揄したそうです。

### 小宮豊隆文庫

小宮豊隆は、昭和四一年（一九六六）に東京都杉並区の自宅で亡くなりました（享年八二歳）。それから三〇年後の平成八年（一九九六）、小宮豊隆旧蔵の図書数千冊が、小宮家から旧豊津町へ寄贈されました。その中には森鷗外や芥川龍之介、斎藤茂吉ら著名な作家の署名入り初版本が数多く含まれるなど、小宮豊隆の交友関係や研究活動を知るうえで貴重な資料となっています。署名入り以外の図書は、現在みやこ町中央図書館で一部公開されています。ぜひ一度、ご覧になってみてください。

（川本英紀）



▲芥川龍之介『羅生門』署名入り初版本（みやこ町所蔵・小宮家寄贈）